



三重陸協たより

三重陸協広報部発行
第6号
平成19年11月23日

努力は自分を裏切らない！

～安田 覚 選手 20年の競技生活～

今年の秋田国体で、日本のトップ選手として長年活躍された安田覚(桑名工教員)選手が競技生活を引退されました。ジュニアから引退までの20年間をふり返ってお話を伺いました。

☆ジュニア時代

小学生の頃は、サッカー少年(マンガの「キャプテン翼」に憧れていました)でしたが、陽和中学校にはサッカー部がなく、かけっこが早かったのと体育の授業で走高跳が結構跳べたのが理由で陸上競技を始めました。入学当初は、短距離を中心にやっていましたが、並行して走高跳もやっていました。夏を過ぎた頃に、当時の顧問であった伊藤弘先生(現:成徳中)に棒高跳びを薦められ、“いやいや”棒高跳を始めました。その頃は「とても横着な奴」だったそうで、(自分では、とても優等生で真面目な中学生だった記憶しかありません。笑)伊藤先生曰く、「頼むから陸上競技部に入って来ないでくれ!」と思うぐらい手のかかる中学生だったそうです。そして、高校ではまたサッカーをやるつもりでしたが、いつの間にかどっぷり陸上競技(棒高跳)にのめり込んでいました。

高校へ入ってからは、専門の指導者がいなかったため、自分で練習メニューを考え練習をしていました。当時の顧問であった「小池弘文先生」が考えた短距離メニューを行う日もあれば、専門練習を行う日もありました。とにかく、高校時代は“強くなりたい”という気持ちが強く毎日必死で練習をしていました。

☆競技生活で嬉しかったことベスト3

1. 釜山アジア大会での銀メダル

同じ三重県出身の小林史明(三重県記録保持者)先輩と一緒に出場してメダルが獲れたことは自分達だけでなく三重県棒高跳び関係者も喜んでくれたと思います。

2. 2002年 日本選手権 初優勝

この年は、春先に半月板損傷と診断され思うように練習ができず出場した試合でした。試合当日までに、関節注射を5回ほど小山整形外科(津市にあるスポーツ整形外科)へ打ちに行ったり、治療をしにいたりとても辛い時期でした。

3. 今回の秋田わか杉国体(引退試合)

4月に右膝を痛め、それがかなり長引き今シーズン最初の試合が7月の三重県選手権でした。5月の県総体後、少しずつ練習を再開することができ三重県選手権では、良い跳躍ができました。その後、秋のシーズンへ向けて夏の練習を追い込んでいたら、今度は左膝をケガしてしまい国体に間に合うかととても心配でした。ケガを克服し国体に間に合わせることができ、更に絶好調だった頃の動きもできたので良かったです。



☆つらかった時期

みなさんご存知の通り、2000年宮城で行われた日本選手権での珍事件です。試合中にポールがお尻に刺さり、そのあと15日間入院しとても辛い日々を過ごしました。正直、こんな痛い思いをするぐらいならもう競技なんて辞めようと思いました。しかし、退院して学校（当時は桑名高校）へ戻った時に、陸上部の生徒達がテスト期間中に自分と練習していたトレーニングを一所懸命に取り組む姿勢に心打たれ、もう一度生徒達と一緒に練習をして活躍しようと思いました。

☆ 若い選手へ

陸上競技を志す上で、何度も壁にぶち当たることも多いかもしれませんが、諦めず直向きに努力して欲しいと思います。

「努力は自分を裏切らない」を座右の銘として常に持ち続けたことが20年間競技続けてこれた大きな要因だと思っています。その間、たくさんの方に支えていただき本当にありがとうございました。今後は、三重の陸上競技発展のために少しでも力になれるよう頑張りたいと思います。指導者としてまた1からの出発ですので、ご指導のほど宜しくお願いします。

【20年間安田選手の指導に携わった伊藤弘先生より】

早いもので出会いから20年がたち、今では安田君のことを棒高跳でつながった同士のよう思うようになってきました。コーチとして彼の競技レベルに達するために公認コーチを取得し、たくさんの指導者の方と出会い、また意見を交わし合うことで、自分自身も前進する機会となりました。自分自身ではたくさんのカテゴリーでコーチすることができたことは、私にとって最高に近い幸せであり誇りでした。安田君本当にありがとう。心から感謝しています。

これからは、指導者としての安田覚先生の活躍を期待します。

第23回日本ジュニア陸上競技選手権大会 第1回日本ユース陸上競技選手権大会 入賞者

10/19～21 大分九州石油ドーム
<ジュニア>

- 3位 男子400mH 52.19 山本健太(日本体育大)
- 4位 男子円盤投 47m10 濱口誘希(宇治山田商)
- 5位 男子円盤投 47m33 小野真弘(津)
- 6位 男子砲丸投 16m11 鳥羽瀬貴仁(四日市工)
女子ハンマー 45m23 加藤晴香(久居) 県新
男子円盤投 47m03 大山祐史(国士舘大)
<ユース>
- 5位 男子走高跳 1m98 衛藤 昂(鈴鹿高専)
女子400m 56.57 愛敬世菜(桑名)

- 6位 男子100m 10.81 中井一磨(宇治山田商)
- 7位 女子100mH 15.02 中川綾菜(伊勢)
女子やり投 42m80 大野美華(稲生)
- 8位 女子100m 12.3 世古 和(宇治山田商)

第38回ジュニアオリンピック陸上競技大会 入賞者

- 10/26～28 横浜・日産スタジアム
- 2位 女子共通ジャベリック 47m08 奥村つかさ(城田)
 - 3位 男子C-100mH 14.63 岩田大輝(一志)
男子共通ジャベリック 68m55 小出裕貴(嬉野)
女子共通円盤投 32m83 藤岡里奈(一志)
 - 6位 男子共通円盤投 42m64 村田仁志(三雲)
女子A-100mYH 14.62 中村祐子(一志)
女子C-砲丸投 10m74 守田りえ(南島西)